

～学校医・歯科医・薬剤師の先生からの指導助言～ (多くのご意見をいただきましたが、一部のみのご紹介とさせていただきます。)

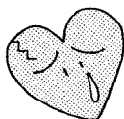
①耳鼻科 水河 Dr. より ～検診の所見から～

- ・「耳垢」：耳垢がたまっていると、内部の観察が十分にできていないので、水泳の授業が始まる前に耳鼻科を受診し、異常がないか診てもらうことが大切。
- ・「鼻汁過多」：慢性副鼻腔炎のうたがいがある。
- ・「アレルギー性変化」：アレルギー性鼻炎のうたがいがある。
- ・「扁桃腺肥大」：年間3～4回扁桃腺炎を繰り返す、睡眠が浅い、嚥下がぎこちない…このような症状がある場合は、扁桃腺肥大の疑いがある。また、慢性副鼻腔炎と合併しているケースが多く見られるので受診が必要。



②精神科 大野 Dr. より ～学期に一度の精神科健診から感じること～

子どもたちの成長を見守る中で、様々な悩みが出てくると思うが、保護者も教員も一人で抱え込まずに、学校と家庭がよく連携をとりながら子どもたちと関わっていくことが大切。例えば、肥満の課題を抱えた子どもに対して、「太っている」という事象以外に目を向けると、解決につながることもある。原因は、服薬によるものか、ストレスからくる過食か、食生活か・・・家庭と学校で情報交換を行うことで見えてくることがある。



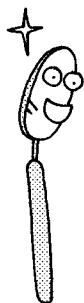
③眼科 山口 Dr. より ～目のケガの対応について～

- ・「外傷」：強打した場合は早期に受診が必要だが、それ以外は、人間は反射で目をつぶるので、眼球損傷はめったに見られない。
チェックポイントは、目を開けることができるか？
眼球の動きに変わりはないか？ 見え方に変わりはないか？
- ・「異物混入」：基本の処置は、すぐに洗うこと！
◎流水で洗い流す △洗面器に水をためて洗う
受診が必要な場合のチェックポイントは、充血しているか？
まぶしそうにするか？ めやにが出ているか？ たびたび目をこするか？
- ・「腫れ」：多く見られるのは麦粒腫（ものもらい）。その場合は抗菌の点眼を処方してもらい治す。
白眼がゼリー状に腫れたときはアレルギーの可能性が高いので、こすらず冷やすこと。
※日曜日にも当番医がいるので、救急のときは近くの消防署に連絡すると教えてくれるとのこと。



④歯科 後藤 Dr. より ～歯科受診はスモールステップで～

南支援学校のむし歯治療率は県内でも高い方で、とても良い傾向である。定期的に口の中を清潔にすることは、インフルエンザなどの感染症の予防にもつながる。
また、歯科受診を怖がって苦勞する場合もあると思うが、子どもが嫌がっているのに無理をさせるのではなく、待合室に入るところからひとつずつできるようになれば良い。その間にむし歯が進行しないように、食生活の中で気を付けたり、ブラッシング指導で対応していくなど、方法は歯科医師を相談して決めていくと良い。



⑤薬剤師 石川先生より ～錠剤が苦手な子どもには～

薬剤師や主治医に相談し、形態を変えてもらうと良い。錠剤を砕いて粉状にしたり、ゼリー状のものに混ぜて服薬するなどの方法もある。悩んだときには、飲ませないのではなく、まず相談してもらいたい。

